

『広報 かるまい』

Hospital — 軽米病院だより(抜粋) —

岩手県立軽米病院長 横 島 孝 雄

地元から医師を育てることを目標に（平成22年6月号）

医師不足が大きな問題になっていますが、その対策の一つに地元の医師を育てることが挙げられます。少し前の新聞に、洋野町の種市病院に3人の地元出身の医師が戻ってがんばっていると載っていました。外から医師が来てくれるのを待っていても当てにならない時代です。時間はかかりますが、地元から医師を育てて戻ってきてもらえれば一番です。

中学校で職業の話しをする機会がありますが、その後で医師の道を考えてみたいという生徒が何人かいます。その人たちを応援して一人でも多く地元から医師を育てることが地域の医療を守ることに通じると思います。

医学部はお金がかかると敬遠している場合もあるかもしれませんが国公立の医学部は他の学部の授業料は変わりませんし、岩手医大でも地域枠という国公立と同額の授業料を払えば県で補助してくれる制度も出来ました。地元で働く予定であれば奨学金にも恵まれています。

これは学校教育の問題でもあり、もうやっていることかも知れませんが、少しでも志のある生徒を伸ばして医師を育てることを一つの目標としてもいいのではないのでしょうか。

◎岩手県地域枠奨学金制度

地域枠入学者全員に対して、岩手県医師養成奨学金制度があります。この奨学金は、卒業後、岩手県の指定する公的病院等に最低9年間勤務した場合に、その返還が免除されます。

地元から医療従事者を（平成27年5月号）

今後都市部で高齢者が増加し、医療や介護の需要が高まると予想されています。地方の医療従事者が都市部に引き抜かれる懸念もあります。

地方では、人口は減少するものの高齢者の割合が増えて医療・介護の需要は当分続きそうです。

このところ就職難といわれていますが、医師、看護師、薬剤師などの医療従事者は全国的に不足しています。ぜひ地元から医療従事者が沢山育ってほしいと思います。医師に関しては、医学部に合格しさえすれば、奨学金制度は充実しています。岩手県医療局や国保連の奨学金の定員がいっぱいになることはない状況で、希望すればほとんど借りられます。看護師については、病院では常に募集している状況であり、介護分野での需要も多く、資格を持っていれば就職できないことはまずないと思われます。養護教員や保健師への道もあり看護師のカバーする範囲は広い状況です。薬剤師については、病棟にいて入院患者の薬や点滴を管理する病棟薬剤師の導入が進むことが予想され、今後しばらくは不足すると考えられます。

本人の好き嫌いもあると思いますが、中学生や高校生の子供を持つ親御さん方には、医療従事者への進路も考えていただきたいと思います。